

平成 28 年度 魚崎高齢者介護支援センター（短期入所生活介護）

事業計画(案)

今年度は、新規利用者様の獲得・職員の育成の 2 本柱を中心に強化を図っていく。
利用者様獲得・職員育成共に年間計画策定・実施・評価・改善を定期的に行い
活力ある職場作りの推進をしていく。

1. 活力ある介護現場の推進

今年度は年間育成計画を見直し、これまで取り組んできたグループ型育成から、全職員が新入職員を含めた個々の職員と繋がりが持てる育成カリキュラムを実施し、指導する側・指導される側双方のレベルアップを図っていく。
本年度は特に利用者様とのコミュニケーション力（目線で会話・体と体のふれ合いで会話・思いが繋がる声掛けで会話）を重点的に強化していきたい。

(1) 職員育成の強化

- ・ 新入職員に対しては指導担当職員を配置する。年間育成計画に基づき必ず毎月 1 回、新入職員と指導担当職員が話し合いができる機会を設ける。2～3 年目の職員に対しても指導担当職員を配置し同様に年間育成計画に基づいた育成を行う。
- ・ 2 か月～3 か月に 1 回、新入職員及び 2～3 年目の職員に対し接遇や介護知識に関する全部署共通の試験を行う。
- ・ 育成の進捗状況や悩み等、必要な情報が部署全体で共有できるよう調整を行う。
- ・ 内部研修・外部研修・教材等を活用し育成する側の職員へのアプローチを主任・リーダーを中心に積極的に行う。
- ・ 必要に応じてメンタルカウンセラーとの連携を取りながら相談員または主任が年 2 回（6 月・12 月）に職員面談を実施し、悩みや業務内容におけるアドバイスをを行う。
- ・ 高齢者虐待防止に関する研修を特養と合同で実施し、高齢者虐待防止への職員の意識向上を図る。
- ・ 利用者様に安心・安全な介護支援を提供し信頼を得る為に、社会人・介護職として必要なコミュニケーション能力（目線の合わせ方・ふれあい方・思いが繋がる会話の仕方）のレベルアップを図っていく。

(2) 「介護力」「チーム力」向上の取り組み

- ・ 「ありがとうございます。」「大丈夫ですか?」「代わります。」「お疲れ様でした。」の言葉を増やす取り組みを実施し、職員同士の気遣いや配慮し合える環境作る。
- ・ 出来ていない所を指導するのではなく、出来ている所・出来た所を褒めるようにし、やる気が高まる指導を行っていく。
- ・ 2か月に1回、職員会議を開催し、情報の共有や、帰宅願望等の困難場面時における対応方法を検討する。
- ・ 古武術や抱えない介護等の内部及び外部研修や福祉用具を活用し利用者様・職員双方に負担の少ない介護方法を積極的に取り入れる。

(3) 他部署との情報共有と意見交換

- ・ 他部署との研修を昨年度に引き続き実施する。介護他部門にとどまらず居宅・地域包括・厨房への交流研修を計画化し幅広く実施する。
- ・ 全部署の中堅職員同士が業務や悩みにおける意見交換ができる機会を設け利用者様への気づきや効率の良い業務進行が自発的に行う力を養う。

(4) 無理のない時間内業務への見直し

- ・ リーダーを中心に時間外になる可能性を分析した上で人員的課題、技術的課題を判断し、その都度業務の見直しを行える様にする。
- ・ 各職員が介護業務以外の担当業務が時間内に行えるよう、主任・リーダーが業務内容及び量を把握しフリーの時間を割り振る。

2. 個々に合わせた快適な生活への取り組み

(1) 個々に合わせた環境作りと専門的ケアの継続

- ・ 昨年度同様にロングの方を中心に科学的介護を実施する。水分ケアを中心に取り組みを行い、利用者様の状態変化に応じて迅速に対応ができるよう状態観察を徹底する。
- ・ 自宅では困難な生活リハビリを希望に応じて積極的に取り入れ実施する。

(2) 充実したレクリエーション

- ・ 余暇活動委員会を中心にレクリエーションの目的や意義、レクリエーション技法を外部研修等を通じて学ぶ機会を設ける。またレクリエーションの種類を増やし、利用者様個々に応じたレクリエーションが実施できる環境を整えるよう努める。

3. 事故予防対策の強化

各職員が利用者様の状況や対応方法等について共通の認識を持っておく事が事故予防については重要である。情報が共有しやすい環境を整え、事故対策及び事故予防を図っていききたい。

- ・ 各利用者様に対し、居室配置やタッチコールの有無等、必要な情報が記載されたシートを作成し、情報の共有と統一された対応が出来るようにする。
- ・ 事故防止委員会を中心にヒヤリハットの活用、事故の振り返り、内部研修の活用を行う事で危険予測の必要性を職員個々が理解できるようにする。
- ・ 利用者様個々の状態変化に気を配り、些細な変化においてもケース入力を行う。
- ・ 複数利用者様対応時の優先順位、歩行の見守り又は付添い歩行での対応の区別について、見直しを定期的に行う。

4. その他

- ・ 職員の有給休暇取得率を数値化し、少ない職員対しては有給休暇の取得を促し、有給休暇取得率を上げるように努める。また、できるだけ連続した休暇が取得できるように調整を行う。

5. 日中利用者数目標

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績見込み	563	576	541	600	645	620	580	529	583	606	522	573	6,938
平成28年度目標	630	651	630	651	651	630	651	630	651	651	588	651	7,665

- ・ 日中利用者数1日あたり、平均21名を目指す。
- ・ 入退所業務負担軽減の為、ロング・準ロングを10名程度の確保を目指し、スムーズに特養への入所に結び付ける様にする。
- ・ 年間活動計画を立て、毎月計画的に実行することで利用者様獲得・確保を行う。
(別紙参照)

6. 平成27年度の目標収入(介護職員処遇改善費含む)

単位(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平成27年度実績	6,465	6,729	6,295	6,862	7,513	6,994
平成28年目標	7,291	7,534	7,291	7,534	7,534	7,291

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績	6,826	6,174	6,764	6,992	6,041	6,631	80,286
平成28年目標	7,534	7,291	7,534	7,534	6,805	7,534	88,707

- ・ 平成28年度2月、3月は収入見込み

平成28年度 魚崎高齢者介護支援センター(短期入所)

利用者獲得活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	各事業所訪問(10件)	各事業所訪問(10件)	各事業所訪問(10件)	各事業所訪問(10件)	各事業所訪問(10件)	各事業所訪問(10件)
情報提供	チラシ配布(食事)	空床情報提供	空床情報提供	チラシ配布(入浴)	空床情報提供	空床情報提供
	空床情報提供			空床情報提供		
会議	居宅・地域連携会議		居宅・地域連携会議		居宅・地域連携会議	
	入所検討委員会 (ロング対象者確認)		入所検討委員会 (ロング対象者確認)		入所検討委員会 (ロ ング対象者確認)	
その他	職員会議	モニタリング	職員会議	モニタリング	職員会議	モニタリング
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	各事業所訪問(10件)	各事業所訪問(10件)	各事業所訪問(10件)	各事業所訪問(10件)	各事業所訪問(10件)	各事業所訪問(10件)
情報提供	チラシ配布(レク)	空床情報提供	空床情報提供	チラシ配布(リハ)	空床情報提供	空床情報提供
	空床情報提供			空床情報提供		
会議	居宅・地域連携会議		居宅・地域連携会議		居宅・地域連携会議	
	入所検討委員会 (ロング対象者確認)		入所検討委員会 (ロング対象者確認)		入所検討委員会 (ロング対象者確認)	
その他	職員会議	モニタリング	職員会議	モニタリング	職員会議	モニタリング

訪問先:ほくら、コープ神戸、はーとらんど甲南、セントケア、うれしの、ゆうゆう、うみのほし
ヘルパーステーション本山、東灘在宅、うきうき、あかね在宅、セコム神戸
神鋼ケアライフ等

モニタリング:奇数月月末に相談員・主任・リーダーで取り組みの成果、課題などの振り返りを行う。